

## 6. 人間観

### 6-1. 人間の分類

#### 6-1-1. 性と年齢による分類

赤ん坊はコルシ korsi、またはポンコルシ pon korsi と言う。そこらへん走り回っているような子供はエカッタル ウタル ekattar utar と言う。女の赤ん坊はマッケ matke と言う。中学生位はオクカイ コルシ okkay korsi と言う。コルシ korsi という言葉は、かわいいなあという感じで言う。これに対して、タアン ヘカチ taan hekaci と言うと、言うことかかないというような感じになる。オクカイポ okkaypo は青年、それ位の年の若い女はやはりマッケ matke と言う。エカシ ekasi はおじいさん、フチ huci (フチ) はおばあさんのこと。

[奥野ハツ氏]

#### 6-1-2. 技能と性格による分類

酒作りでもなんでも出来る人はアシカイ askay (上手だ) とされる。

[奥野ハツ氏]

カッケマツ katkemat は金持ちの奥さんのこと。ニシパ nispa (金持ち) の奥さんだ。鷺塚さん、市橋さんの家の奥さんがカッケマツ katkemat だ。子供ながら、そういうことは聞いてわかっていた。

[奥野ハツ氏]

パケハイ pakehay はノータリンという意味だ。

[奥野ハツ氏]

イク iku (酒飲む)して道路にねころんでいるような人を見て養母がバチコアツ pacikoat (罰が当たる) と言っていた。

[奥野ハツ氏]

#### 6-1-3. 身分・家系による分類

ノヤサルコタン noyasar kotan (農屋)には、猟をする人は鷺塚鷺太郎と市橋ヨウキチの2人しかいなかった。鷺塚鷺太郎は、村の指導者的な人で、ニシパ nispa、コタンコロクル kotan kor kur であったが、クマ狩はしなかったようだ。

市橋ヨウキチさんはクマ狩の名人だった。市橋さんは、クマの頭の皮が付いたままのものを木に差してヌサに立てていた。

[奥野ハツ氏]

子どもの頃、鷺塚鷺太郎さんが部落会長だった。もう白髪の人だった。その人を見たら黙っ

て頭を下げて挨拶をした。普通の人には今日とは声出して挨拶するところだが、あまり人の出入りもしないような偉い人だからということでそうした。私が結婚してから驚太郎さんは亡くなった。もう自分は働いていたので養母に香典を託して持って行ってもらった。

[奥野ハツ氏]

## 6-2. 身体部位名称

パケ pake (頭)  
オトフ otop (髪の毛)  
ナヌ nanu ~ナヌフ nanuhu (顔)  
シキ siki (目)  
ナヌラル nanurar (眉毛)  
シキラフ sikirap (まつ毛)  
エトウ etu (鼻)  
キサル kisar (耳)  
チャロ caro (口)  
パルンベ parunpe (舌)  
チャプシ capusi (唇)  
イマク imak イマキ imaki (歯)  
ノクケウ nokkew (顎)  
レクチ rekuci (首)  
タフストウ tapsutu (肩)  
アシケペツ askepet (指)  
ルエ アシケペツ rue askepet (親指)  
シモンアシケペツ simon askepet (右の指)  
シモン simon (右)  
ハリキ harki (左)  
ペンラム penramu (胸)  
ペンラム アルカ penramu arka (胸が痛い)  
ホン~ホニ hon ~ honi (腹)  
セトウル seturu (背中)  
イクケウエ ikkewe (腰)  
チイエ ciye (男根)  
イクケウタラ ikkewtara (金玉が垂れ下がっている)  
オソロ osor (尻)  
オソルプイ osorpuy (尻の穴)

コッカパケ kokkapake (膝かぶ)  
チキリ cikiri (足)  
チキリ イッケウ cikiri ikkew (足の付け根)

[奥野ハツ氏]

## 6-4. 身体の世話

### 6-4-6. 禁忌

木を加工して何か作るのは、女のすることではないと言われた。山の神が女だから、女が木を切ると自分を殺すことになるからだそう。

[奥野ハツ氏]

子供、女(マツ mat)はロット モナア rotta monaa (上座に座る)するものではないと言われた。

[奥野ハツ氏]

## 6-5. 人の一生

奥野ハツ氏は、大正元(1912)年8月1日に静内町農屋に生まれ、そこを離れたことはないが、平成になってから様似に移る。ずっと土建作業をしてきて、のちに自分で会社を起し、現在、御子息がそれを継いでいる。

[奥野ハツ氏]

私の実母は、森崎ミサという。静内の森崎幸雄氏(『アイヌ民俗調査報告書』第11巻参照)は私の甥にあたる。

幼いころ、おばさん(奥野チヨ)にもらわれていった。この人が私の育ての母だ。その母は50年前に62歳で亡くなった(明治15年ごろの生まれと推定される)。養母は、夫も子供もいない人だった。口やかましく厳しい人だったが、たたかれたことは一度もなかった。ハツ、ヘタク、ヘタク hetak hetak「ハツ、早く、早く」と畑仕事を手伝わされた。ずっと母と二人だけの生活で、また、一緒に遊ぶ子供も周りにいなかった。

私は、子供のころから、「骨やみ」(怠け者)ではなかった。自分一人で母を「あずかって」(面倒を見て)いるという幼な心があって、裏山に行って枯れ木を集め、夏は大水で流木が出たらそれを拾いに行ったものだ。小学4年のとき、和人の農家の草取りを手伝ったことがある。他に大人が4、5人いたが、子供は私一人だ。負けまいと思って一生懸命にやった。早く一人前になりたかったのだ。45銭の出面賃をもらったが、それがお金をかせいだ初めての経験だった。お金を握って家に走って帰り、ハポ、ハポ hapo.hapo と母を呼ぶと、ネペタ népeta?「何なの」と言うので、母の手にお金を握らせたところ、母は、ハーパパ、ハーパパ hápapa.hápapa「ありがとう」と言った。私は、どこに行っても働き者だとほめられた(イコプンテク ikopuntek「ほめる」)。

[奥野ハツ氏]

### 6-5-1. 恋愛と結婚

下帯は生みの母親からじかにもらった。ポンクツ ponkut と言っていた。編み方は難しいみたいだった。母親が編んでいるのを見たことがある。娘が18、9歳になって一人前になるとこの帯を親からもらう。初めての月経の前にもらうものか後にもらうものかはわからない。この帯を身に着けてから嫁に行くという意味なのだ。風呂に入る時、いちいち解かなければならぬので面倒臭いと思ったけれど、親がくれたものだから守って行かなければと思った。私は帯をもらったが、妹はもうもらわなかった。下帯の材料は綿糸のようだった。これを締めれば大人になるんだと言われた。これを着けていないと嫁に行けない。スムンクルとメナシウンクルでどう違うかわからない。

[奥野ハツ氏]

チカルカルペ cikarkarpe (刺繍した着物)、タマサイ tamasay (首飾り)を嫁に行くとき親にもらう。

[奥野ハツ氏]

### 6-5-3. 育児と教育

シタ sita (ゆりかご)に子供を縛って動かないようにしてスエスエ suesue (揺する)してあやす。梯子みたいな枠にキナ kina (ござ)をしいてその上に子供を縛って、ゆりかごを梁からつるす。

[奥野ハツ氏]

### 6-5-6. 葬礼と先祖供養

育ての親は、掛け布団を畳んで、それによりかかって、ただハイヤハイヤ hayya hayya (苦しい苦しい)と言いながら、一週間おしっこもせず、何も食わず、その翌日座ったまま62歳で亡くなった。昔の年寄り病院に入って死ぬということはなかった。

[奥野ハツ氏]

## 6-8. 交易・通婚・戦争

### 6-8-1. 交易

養母は、東静内の親戚(山本ショウゾウ、おばさんはカシコと言う人)に行き、ササゲマメ、ついたヒエ等と交換に生干しのスケソウなどの魚やコンブを貰ってサラニブ saranip(編み袋)に入れて背負って帰って来る。養母は帰って来ると、ハ エ ヤ ク シンキ ク シンキ ha e ya ku=sinki ku=sinki 「あー、疲れた、疲れた」と言った。持ってきた魚は村の人に分配したのではないか。魚は家の外のクマ kuma (干し竿)に紐でつないで鞍かけにして干した。干せると家の中の壁に掛けた。東静内から農屋に来るということはない。いつも養母が東静内に出かけていた。

[奥野ハツ氏]

浜からもらってきたスケソウはおつゆのだしにした。コンブもあぶってだしに入れる。コンブブシ konpupusi (昆布をぶつぶつになるまであぶる) して入れる。味付けは塩味だ。おつゆの実には野菜類を使った。センダイカブは皮むいて千切り、葉もゆがいて入れる。

[奥野ハツ氏]

スオロコニ suorokoni (アブラカレイ) も浜からもらってきた。浜からイワシ油をもらって来て使った。油はスム sum という。

[奥野ハツ氏]

春立に親戚がいて、自分がコンブ取りに行ったことがある。コルシ korsi (子ども) のくせによくやるとほめられた。

[奥野ハツ氏]

新冠の人はメナシウンクル menas un kur (東部の人) だ。(新冠の人に関しては奥野氏の記憶の誤りかもしれない [編者])。静内の人にはスムンクル sumunkur (西部の人) だ。市橋ヨウキチはスムンクル sumunkur (西部の人)、ポンチャチャエカシ pon caca ekasi もスムンクルだ。農屋のコタン kotan (村) の人は皆スムンクル sumukur (西部の人) ということをや母が言っていた (静内9-2では、スムンクルとメナシウンクルが混じっていたと言っている。編者)

[奥野ハツ氏]

クワ kuwa (墓標) は、男と女で形が違う。スムンクル sumunkur (西部の人) の女の墓標は先が丸かった。男の墓標は矢印形だ。メナシウンクル menas un kur (東部の人) の墓標の形はわからない。

[奥野ハツ氏]